



# 月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番  
95.10.5 No. 4271

## 「塩づけ」が許さず一併廃止に伴う 弾糸転配の一回だけ!

### またもたら一回の事前通知!

九月二十九日以降、千葉支社は、十月六日に予定されている蘇我駅そば店の廃止に伴う配転の事前通知を行なっている。蘇我駅そば店には、五名の労働者千葉組合員が配転されている。五名のうち四名が運転士からの強制配転者だ。直営店舗の経営がたちゆかなくなり、一斉に廃止するというのだから、運転士に戻すのは、あまりにも当然である。しかし結果は、またも、「たらい回し」の再配転である。事前通知の内容は、五名のうち三名が蘇我駅駅業務への配置替え、二名が幕張電車区であった。断じて許すことはできない。

本部は、この事前通知に強く抗議し、直ちに千葉支社に、事前通知の撤回と原職復帰を求め、申し入れを行なった。

### 絶対に許すことはできない!

強制配転者は、永い者では、配転されてからすでに十年が経過している。国鉄分割・民営化の前に、「強制収容所」として設置された「人活センター」に隔離されて以来、無人駅、ミルクスタンド、直営店舗等をたらい回しにされ続け、今日に至っているのだ。しかも、それぞれの配転先の業務は、ほとんどせ

いぜい数年で廃止になつてい業務ばかりだ。結局、どれも労働千葉の組合員を配転させるために、必要もない業務、採算のあはずのない業務をデッチあげただけであったことは、今や明らかだ。

にも失敗したのだ。「国鉄改革」が生んだのは、ぼう大な不当労働行為と、憎しみと、人の顔をしながら、革マルと手を結んで人を差別しぬくことに何の心の痛みも感じない管理者群と、そして二七兆円の累積債務だけだ。多くの者がオウムを囃すが、JRと革マルの結託体制のなかに見えてくるのは、オウムそっくりの精神に他ならない。

### 「国鉄改革」が生んだものは?

### 自信と確信をもつて進もう!

しかし、当局やJR総連・革マルは、ここまでやっても、結局労働千葉潰しにも、国労潰し

しかし、このような「JR体制」が、そもそも永く続くはずはない。いよいよJR東日本の革マル結託体制が吹き飛ばされ

にかかっている。青ざめているのはやつらの方だ。このような状況をつくりだしたのは、労働千葉が揺るがぬ団結を固めて頑張りぬき、一〇四七名の闘争団が頑張りぬいたからだ。われわれが作りだした情勢である。われわれは、改めて、進んできた道が正しかったと確信をもつことができる。

勝負はこれからだ。強制配転された仲間たちの痛みを全組合員の共通の心とし、組織をあげてたちあがろう。強制配転を粉碎するぞ! 原職復帰をかちとるぞ! 勝浦運転区廃止攻撃粉碎の闘いと結合して、ストライキで闘おう!

### 強制配転者の痛みを全組合員の心として、原職復帰実現を!

一〇・八三里塚現地全国総決起集会に起とう!  
日時 九五年一〇月八日(日) 正午より  
場所 成田市東峰 反対同盟員所有地  
集合 成田駅改札口 十時三〇分  
車の両輪たる反対同盟の要請に応え結集しよう!